




今年失敗したこと

- 意思決定を延期した代償 -

笹川 尋翔

今日話すこと

1.  今年起きた「遅れ」について
2.  なぜ遅れてしまったのか
3.  失敗から学んだ3つのこと

遅れ①: 研究活動

研究発表会にて:

- 指導教員からのレビューで提案手法の問題を指摘された
- 「現在の研究方針が不適切なのでは...?」
と感じるようになった



遅れ②: コミュニティ活動

最初の方針:

- 研究を優先するため、ITイベントへの参加頻度を下げよう😓

しかし、状況が変わってしまい...

- 参加する予定だったイベントについても、研究の遅れの影響で中々申し込めず...



どうしてこうなった

なぜ遅れてしまったのか

少なくとも、挑戦を避けていた訳ではない

研究でもコミュニティでも新しいことに取り組む意欲はあった

では何を避けていたのか？

周囲の人々との軋轢

避けていたもの

- 指導教員との意見の対立
- コミュニティメンバーの負担の増加
- 他者からの期待を裏切ること

これは誰でも避けたいと思うはず...

人間関係を円滑に保ちたい気持ちは自然なもの

判断の背景

自然は人類を、苦痛と快楽という2つの主権者の支配下に置いた。

- Jeremy Bentham, 功利主義の創始者

- 「軋轢を避ける = 社会全体の幸福を増やす」と考え、
軋轢を避けたいという感情を正当化しようとしていた

軋轢は生じるもの

世の中には2種類の言語しかない。

人々が文句を言う言語と、誰も使わない言語だ。

- Bjarne Stroustrup, C++の作者

- 批判や軋轢を避けることは、使われないこと = 価値を生まないことを意味する

まとめ



意思決定を延期し続けた結果、様々な場面で
貢献する機会を逃した

軋轢の回避を「社会全体の幸福」という
枠組みで正当化していた

失敗から得た学び:

1. 他者の幸福は対話でしか知り得ない
2. 自分の成長も社会的価値の1つ
3. 価値あるものには批判が伴う